

## 1. 第13回フォーラムの開催 (3. 10)

第13回山のトイレフォーラムが札幌市エルプラザで開催され、38名の参加者を迎えて行われました。

テーマは「北海道の山トイレ 今私達にできること」です。

今回は主に次の課題についてディスカッションしました。

- (1) 黒岳バイオトイレ問題 (2) 幌尻山荘のトイレ問題
- (3) 羅臼岳のトイレ問題 (4) タ張岳ヒュッテトイレ状況
- (5) 羊蹄山避難小屋建替に伴うトイレについて
- (6) 空沼岳万計山荘のトイレ状況

黒岳バイオトイレは設計値をはるかに超える利用者でバイオが正常に働かず、オガクズ交換を年5回ほど余儀なくされています。費用面も含めて抜本的な改善策は見つからず、関係者は頭を悩ませています。

幌尻山荘バイオトイレは水力発電機を修理したこと、天候が悪かったこと、シャトルバスでの入山となったことから登山者が少なく比較的順調に稼働。しかし1基しかないために山荘内の貯留式トイレ、外の仮設トイレは必要で、排泄物の担ぎ下ろしは続けなければなりません。故障の多い外国製水力発電機は日本製に取り換える予定であるとの報告でした。

知床の羅臼岳は2008年から携帯トイレ普及活動を開始。回収ボックスの整備、購入箇所を増やす等、普及に向けた環境整備を実施してきました。今年は岩尾別コースの銀冷水に固定式携帯トイレブースが設置される予定です。

羊蹄山避難小屋は今年建替えられ、それに伴うトイレは土壌処理方式のバイオトイレが導入されるとのことでした。



第13回山のトイレフォーラム模様



携帯で見る山のトイレ情報

<http://yamatoilet.jp/i/yamatoilet.htm>

## 2. 大雪山山開きでマナー啓発 (6. 30)

第7回大雪山山開きの入山式が旭川市役所前で実施されました。山開きは3コース設定され、全部で参加者は130名です。事前に主催者側である旭川山岳会に山のトイレマナーガイドとマナー袋を送付して、参加者に配布していただきました。

当日の入山式に当会の仲俣が駆け付け、当会の幟を立てアピールしてきました。主催者側からも感謝され、宿泊所で山のトイレマナーについて説明するとのことでした。



大雪山山開き入山式 (旭川市役所前)

## 3. 大雪山登山道協働型維持管理の情報交換会に出席 (2. 1~2、2. 27、6. 1)

環境省北海道地方環境事務所主催の標記会議に当会から出席しました。大雪山の登山道は毎年、多くの団体のご苦労により維持されています。2005年に管理水準が定められましたが、今回は具体的な施工方法を示した教本が出来ました。現場の実態をよく知った関係者が一堂に介しての情報交換会は大変有益でした。


登山道維持だけでなく、避難小屋や山のトイレ等についてもこのような情報交換の場が必要と提起してきました。なお、2012年度、大雪山の登山道整備箇所と所属団体を次のURLで見ることができます。

<http://www.daisetsuzan.or.jp/r/riyou/kyoudou.html>

## 4. フォーラム資料集HPへアップ (7. 10)

当会のホームページでは過去13回のフォーラムの議事録が掲載されています。当会のフォーラム資料集は全国的にも貴重な資料として多くの山岳環境の保全に携わっている人に評価され、在庫に対する問い合わせも多くあります。

これらの膨大な報文の電子データをPdf化して、HPへアップしましたのでお知らせします。

当会の連絡先  裏面

(山のトイレを考える会連絡先)

060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院内

山のトイレを考える会事務局 (担当: 愛甲哲也)

電話&FAX: 011-706-2452 電子メール: [hokkaido@yamatoilet.jp](mailto:hokkaido@yamatoilet.jp)

<http://www.yamatoilet.jp>

(ニュースレター編集)  
仲 俣 善 雄